

**製品名: コラーゲン I(4H10)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM09211**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	139kDa

**抗原情報**

遺伝子名	COL1A1
別名	Collagen alpha-1(I) chain (Alpha-1 type I collagen)
遺伝子 ID	1277/1278
SwissProt ID	P02452
免疫原	コラーゲン I の合成ペプチド

**背景**

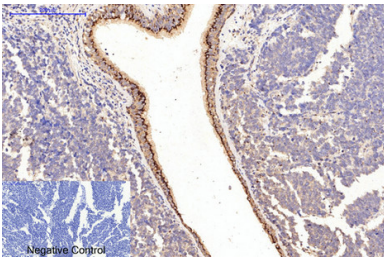
この遺伝子は、2つの $\alpha 1$ 鎖と1つの $\alpha 2$ 鎖からなる三重らせん構造を持つI型コラーゲンのプロ $\alpha 1$ 鎖をコードしています。I型コラーゲンは、ほとんどの結合組織に存在する線維形成コラーゲンで、骨、角膜、真皮、腱に豊富に含まれています。この遺伝子の変

異は、骨形成不全症 I~IV 型、エーラス・ダンロス症候群 VIIA 型、エーラス・ダンロス症候群古典型、カフェー病、特発性骨粗鬆症と関連しています。この遺伝子と血小板由来成長因子  $\beta$  遺伝子が位置する 17 番染色体と 22 番染色体間の相互転座は、成長因子の無秩序な発現に起因する隆起性皮膚線維肉腫と呼ばれる特定の皮膚腫瘍と関連しています。

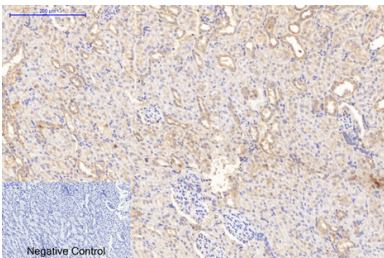
## 研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;

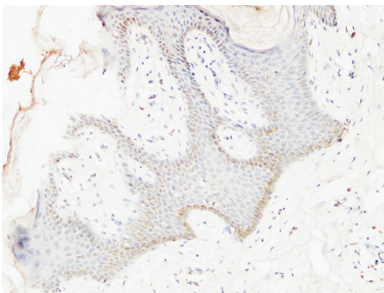
## 画像データ



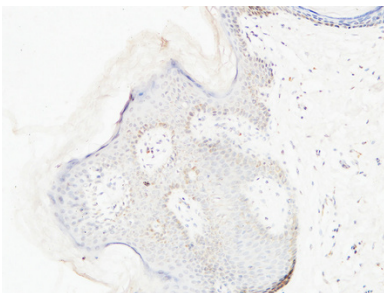
パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. コラーゲン I マウスモノクローナル抗体 (4H10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



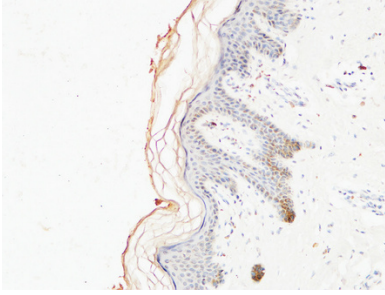
パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. コラーゲン I マウスモノクローナル抗体 (4H10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。